

ツル類の飛来状況と今年度の取組報告について

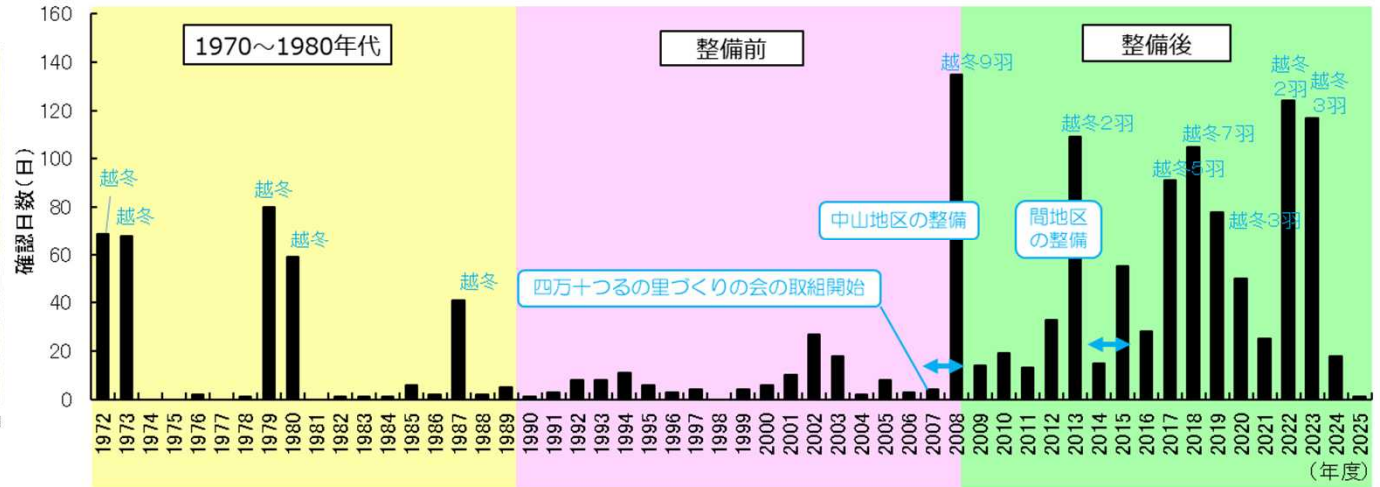
四万十川流域におけるツル類の飛来状況

四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」の取組が行われています。取組を開始してから四万十市内におけるツル類の確認日数、越冬頻度は増加しています。しかし、飛来するツル類に対し、越冬個体数は未だ少ない状況にあります。

最近では2022年度にナベヅル2羽、2023年度にナベヅル3羽が越冬しましたが、2021年度や2024年度のように確認日数も少なく越冬個体もない年度もまだあります。2025年度は、11月20日に2羽のナベヅルが飛来したのみで、越冬は確認できませんでした。なお、四万十つるの里づくりの会では、越冬の定義を12月に10日以上かつ翌年1月に10日以上確認した場合と定めています。



河道内にツル類の暮らせる環境を整備した中山箇所ので2013年度に越冬したマナヅル2羽

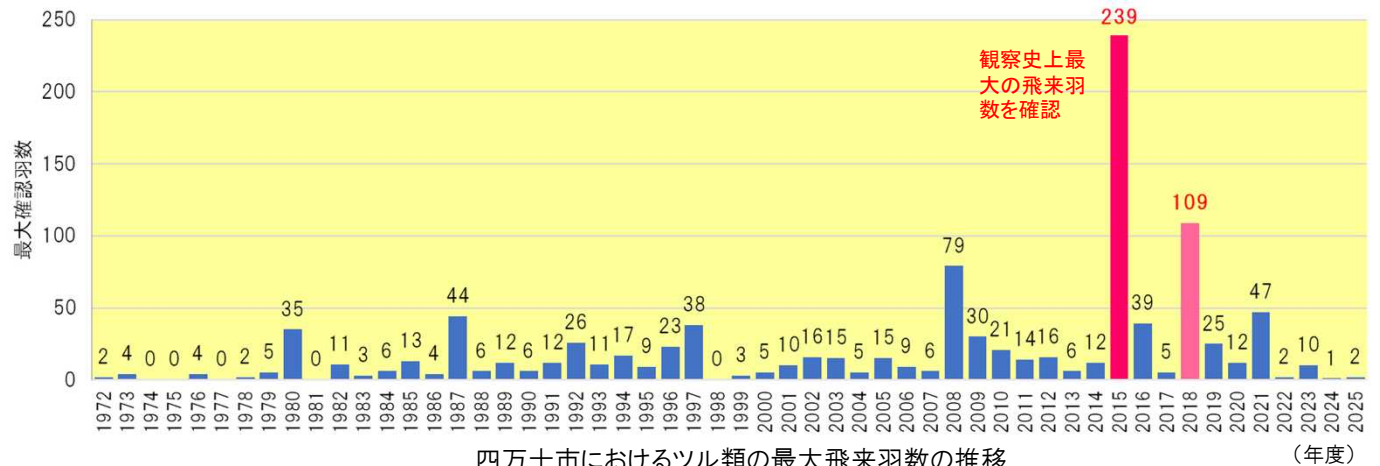


四万十市におけるツル類の確認日数の推移

※2025年度は2026年1月20日時点の記録



観察史上最大数が飛来した2015年度のナベヅルの状況



四万十市におけるツル類の最大飛来羽数の推移

※2025年度は2026年1月20日時点の記録

(参考) 四国におけるツル類の飛来状況 (2025年10月～2025年12月)

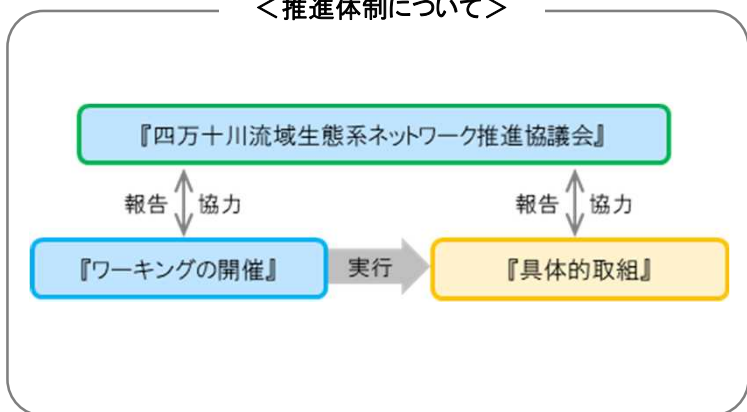
- 今期 (2025年10月～2025年12月) は、四国において、 、 、 、 、 、 、 でツル類 (ナベヅル) の飛来が確認されています。

希少種情報につき、委員限り

四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

多様な主体との連携・協働により、四万十川流域の豊かな自然環境の保全・再生と地域活性化を目指す『四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会』を2019年12月に設立しました。当協議会では、全国的な取組や今後の取組の発展、これまでの地域の取組を活かす観点からツル類を指標種に設定し、ワーキングでの活動を中心に各種取組を推進しています。

<推進体制について>



協議会構成員
四万十市 市長
四万十市教育委員会 教育長
四万十市区長会 会長
中村商工会議所 会頭
一般社団法人四万十市観光協会 会長
一般社団法人中村青年会議所 理事長
四万十つるの里づくりの会 会長
四万十川自然再生協議会 会長
高知野鳥の会 会長
国土交通省 中村河川国道事務所 所長



協議会の開催の様子

開催状況

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
2019年12月25日(水)	2021年2月16日(火)	2022年2月14日(月)	2023年2月6日(月)	2024年2月14日(水)	2025年1月28日(火)
議事 <ul style="list-style-type: none"> 生態系ネットワークについて 四万十川をとりまくこれまでの取組 四万十川流域における生態系ネットワーク形成に向けて 今後の進め方について 	議事 <ul style="list-style-type: none"> 四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について ワーキングの開催及び取組状況について 四万十川流域生態系ネットワーク全体構想(案)について 北海道長沼町長 齋藤良彦氏による講演及び意見交換会 	議事 <ul style="list-style-type: none"> 四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について ワーキングの開催及び取組状況について 短期目標の達成に向けた取組(案)について 鹿児島県出水市長 椎木伸一氏による講演及び意見交換会 	議事 <ul style="list-style-type: none"> 四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について 今年度の取組報告及び来年度の取組の方向性について 新潟県佐渡市長 渡辺竜吾氏による講演及び意見交換会 	議事 <ul style="list-style-type: none"> 四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について 今年度の取組報告及び来年度の取組の方向性について 千葉県いすみ市長 太田洋氏による講演及び意見交換会 	議事 <ul style="list-style-type: none"> 四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について 今年度の取組報告及び来年度の取組の方向性について 愛媛県西予市長 菅家一夫氏による講演及び意見交換会

四万十川流域生態系ネットワーク全体構想 概要

生態系ネットワークについて

- 生態系ネットワークとは、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有する地域を核として、それらを有機的につないでいく取組です。
- 生態系ネットワークの形成により、私たちの暮らしを支える生態系サービス(生物多様性がもたらす様々な恵み)を持続的に得ることが期待されます。また、周辺市町における農業・観光・環境教育などの取組成果に付加価値が生じ、地域の活性化に向けた展開も期待されます。
- 全国各地で河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取組が進められています。四国では、2018年2月に「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立されています。

指標種のツル類について

- 生態系ネットワークの形成にあたっては、地域を特徴づける野生の生きものを指標種とすることが有効です。四万十川流域では、「ツル類」(主にナベツルとマナツル)を指標種に設定します。
- 現在、鹿児島県出水市では、1万羽以上のツル類が越冬しています。一極集中による感染症等の発生や農業被害などが懸念され、新越冬地形成の取組が進められています。
- 四万十市南部地域は有力な新越冬地形成の候補とされ、中筋川流域は生息地としてポテンシャルが高いことが明らかになっています。



ナベツル



マナツル

四万十川流域における取組状況

- 四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」が行われています。また、2006年度に設立された「四万十川の里づくりの会」により、事業箇所周辺の越冬地整備や普及啓発の取組が継続的に行われています。
- 四万十川自然再生事業や四万十川の里づくりの会の取組が始まってから、ツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加しています。
- 今後、ツル類が安定して越冬できるように生息環境づくりの取組を継続、拡大するとともに、ツル類を活かした地域・人づくりの取組を推進することが望まれます。



四万十川の里祭り



体験学習会

四万十川流域生態系ネットワークの目標

四万十川流域生態系ネットワーク形成の目的

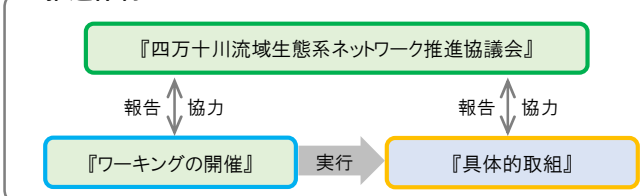
- ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成
- ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

短期目標(～2025年)	中期目標(～2030年)	到達目標(～2050年)
ツル類の安定した越冬環境づくり		
<p>これまで取組が行われてきた江ノ村地区、ツル類の飛来実績が多い森沢・間地区において、農業者の理解、協力を得て、冬期湛水等のねぐら環境の創出や、二番穂の確保等の採食環境の創出が行われている。</p> <p>また、地域住民等の理解、協力を得て、ツル類への人為的なストレスが低減されている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域で越冬できるツル類の個体数が増えている。</p>	<p>江ノ村地区、森沢・間地区において、ねぐら環境・採食環境の創出、人の利用の調整が、ツル類を活かした農業振興や観光振興も相まって、継続されている。</p> <p>また、流域内のツル類の生息ポテンシャルが高い地区でも、農業者や地域住民等の理解・協力を得ながら、生息環境づくりが進められている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域でさらに多くのツル類が越冬できるようになっている。</p>	<p>四万十川流域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが形成され、「宝」である生態系と歴史・文化・伝統を活かした産業が営まれている。</p> <p>ツル類を指標とした四万十川流域での取組から、幡多地域の生態系ネットワーク形成へ取組が展開されている。</p>
<p align="center">四万十市の「宝」である生態系を 保全し、活かし、地域の活力にする</p>		
ツル類を活かした地域・人づくり		
<p>江ノ村地区や森沢・間地区において、農業者の理解・協力を得ながら、ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が進められている。</p> <p>地域住民等の理解、協力を得ながら、観光利用でのルール設定や受け入れ体制の構築が行われ、来訪者の受け入れが始められている。</p> <p>地域内外への情報発信や普及啓発の継続により、四万十川流域の「つるの里」としての認知度が上がっている。</p>	<p>ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が継続して取り組まれ、地域内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。</p> <p>地域の事業者等との連携・協働により、ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。</p> <p>地域内の多様な主体が参加・協働する取組になるとともに、地域外の人や組織との連携・協働が進み、地域の関係人口が増えている。</p>	

取組内容

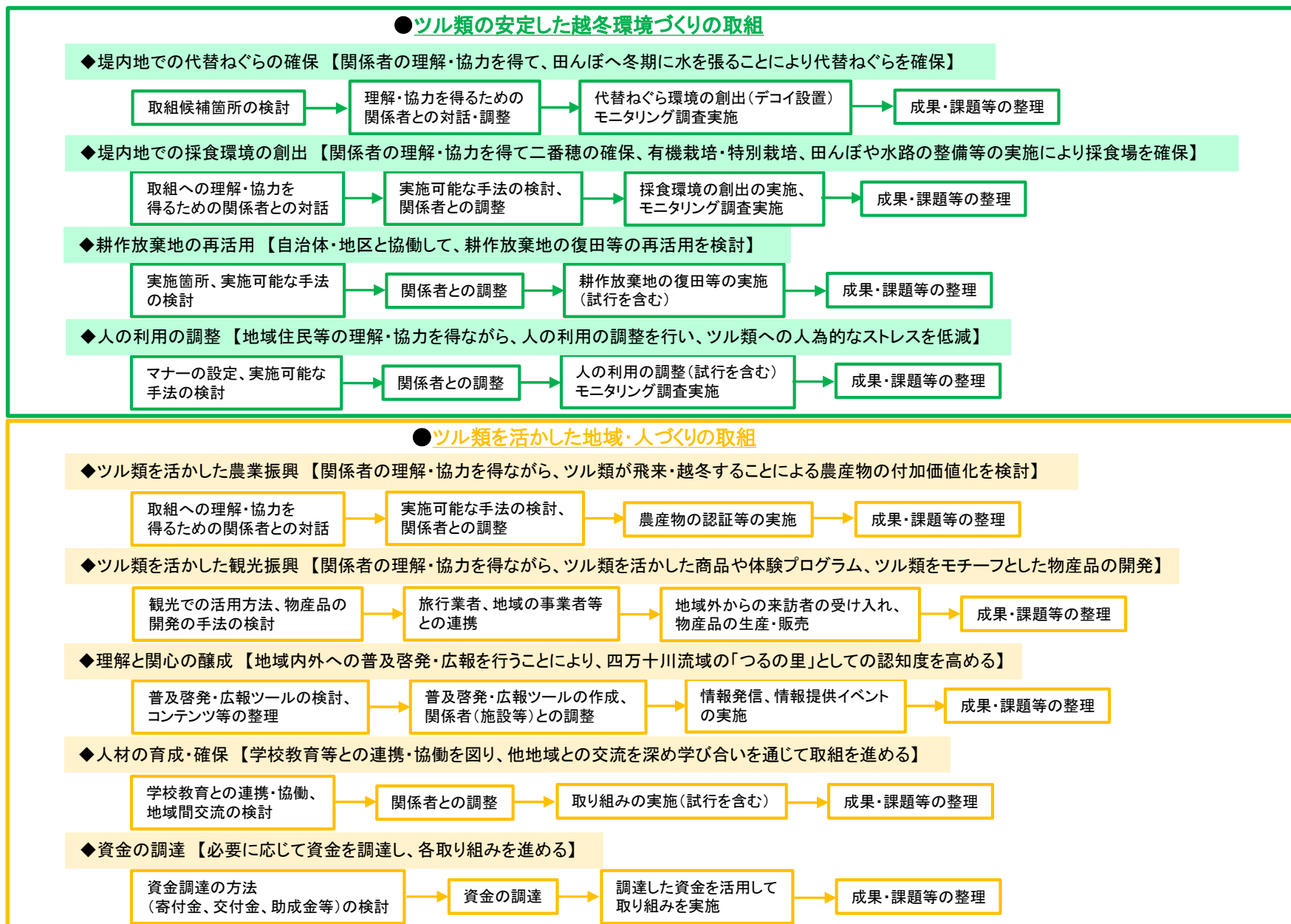
ツル類の安定した越冬環境づくりの取組	ツル類を活かした地域・人づくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> ◆堤内地での代替ねぐらの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・冬期湛水 ・遮蔽帯の設置 ◆堤内地での採食環境の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・二番穂の確保 ・有機栽培、特別栽培 ・適度な畔の刈り取り ・水田魚道の設置、水路の段差解消 ・水路の堰上げ ・置石工、乱杭工 ・水路上部への蓋掛け ・水路へのスロープの設置 ・中干しの開始時期や期間の変更 ・退避溝(江)の整備 ◆耕作放棄地の再活用 ◆デコイの設置 ◆人の利用の調整 <ul style="list-style-type: none"> ・ツル類が飛来していることの周知と協力依頼 ・ツル類を刺激しない観察機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ツル類を活かした農業振興 <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の価値の向上 ・オーナー制度の導入 ◆ツル類を活かした観光振興 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール設定 ・旅行商品や体験プログラムの開発 ・受け入れ体制の整備 ・物産品の開発 ◆理解と関心の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の拡充 ・情報提供イベントの実施 ◆人材の育成・確保 <ul style="list-style-type: none"> ・取組への参加の機会の提供 ・学校教育等との連携・協働 ・地域間の交流の推進 ・地域外の人や組織との連携・協働 ◆資金の調達 <ul style="list-style-type: none"> ・寄付金の活用 ・交付金、助成金の活用

推進体制



四万十川流域生態系ネットワーク短期目標（2021年～2025年）の達成に向けた取組の概要

「四万十川流域生態系ネットワーク全体構想」に掲げた「短期目標」の達成に向けて、「四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）」を策定し、具体的な取組を進めています。



今年度のワーキングでの取組

今年度は、四万十川流域生態系ネットワーク短期目標（2021年～2025年）の達成に向けて、以下の取組を行いました。

今年度の主な取組内容

ツル類の安定した越冬環境づくり

①堤内地での代替ねぐらの確保

- ・代替ねぐら環境の整備を3箇所で行ったが、ツル類の利用は確認できなかった。

②デコイの設置

- ・代替ねぐらの確保に取り組んでいる3箇所と自然再生事業地2箇所に立体型デコイを設置した。

③人の利用の調整

- ・「広報しまんと」2025年11月号にて、「四万十ツルの観察マナー」の順守を呼びかける記事を掲載し、市民への周知を図った。
- ・見守り活動の試行を行うため、活動時に着用するベストと車に貼り付けるマグネットステッカーを作成した。



ワーキング会議

ツル類を活かした地域・人づくり

④ツル類を活かした観光振興

- ・ツル類や四万十川流域の自然を活かした教育旅行プログラムの検討のため、幡多広域観光協議会にヒアリングを行った。
- ・幡多農業高校の主に生活コーディネート科を対象に、生態系ネットワークやツルの里づくりの取組について授業を行い、ツル類をモチーフとした商品開発等の連携を開始した。

⑤理解と関心の醸成

- ・四万十市で開催されたイベントの会場や高知県立のいち動物公園（香南市）で、普及啓発パネルの展示やツルに関するクラフト体験を行った。

⑥人材の育成・確保

- ・東中筋小学校5年生、6年生の児童を対象に、ツルの自然体験学習会を実施したほか、四万十つるの里祭りや高知市で開催される「生物多様性こうちプラン大賞交流会」でツルの里づくりの取組について発表した。
- ・四万十市内において、ツルの自然体験学習会の実施校を増やすため校長会に出席し、ツルを題材とした出前授業について情報提供を行った。
- ・四万十市の農業やツルをテーマに卒業研究に取り組む、高知大学4年生の生徒を対象に地域の関係者へのヒアリング実施に協力した。



幡多農業高校での授業

堤内地での代替ねぐらの確保

四万十川流域においてはツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加しているものの、主要なねぐらである四万十川の砂州周辺での落ちアユ漁、中筋川沿川の狩猟等の影響により、11月中旬以降には他地域へ飛び去る個体が増加し、越冬に至る個体数は極めて少ない状況です。そのため、四万十川の砂州が利用できなくなった場合の代替ねぐらを確保する取組を進めています。

ツル類のねぐら環境の条件

- ・湛水深：5～10cm
- ・人工光が入らないこと
- ・日の入り1時間前～日の出1時間後に人や犬が近づかないこと

代替ねぐら環境の整備

今年度は、江ノ村箇所①、間箇所②、実崎箇所の3箇所で、冬期に田んぼへ水を張り、代替ねぐら環境を整備しています。3箇所とも自動撮影カメラを設置し、モニタリングを行っています。



2025年度の代替ねぐら環境の整備箇所



江ノ村箇所①



自動撮影カメラ



間箇所②



自動撮影カメラ



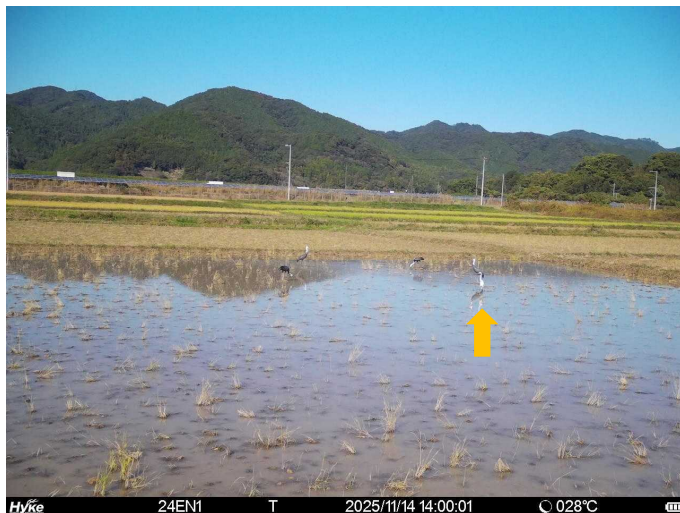
実崎箇所



自動撮影カメラ

堤内地での代替ねぐらの確保

今年度の自動撮影カメラによるモニタリングでは、ツル類による堤内地の代替ねぐらの利用は確認できませんでしたが、2025年11月20日にナベヅルが江ノ村箇所①の周辺の田んぼに飛来しました。そのため、来年度も継続して代替ねぐら環境の整備に取り組みたいと考えています。また、ツル類以外ではサギ類やカモ類、哺乳類などの生きものの利用が確認されています。



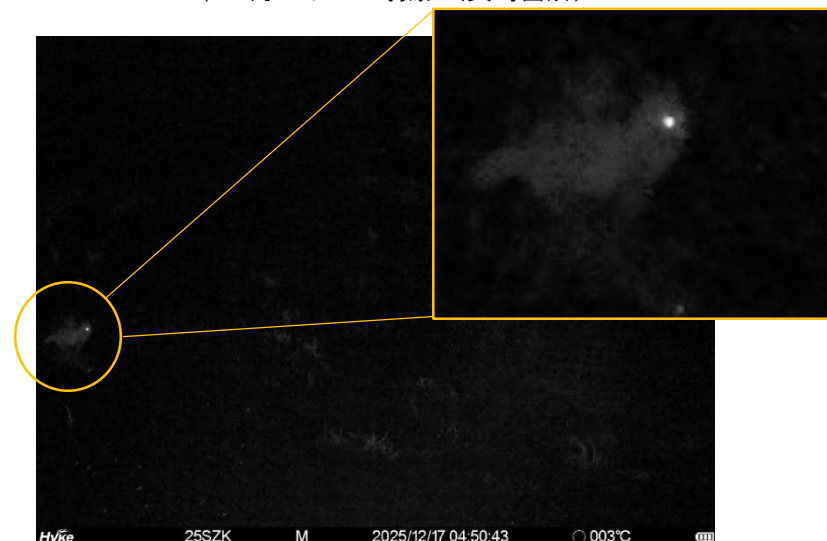
日中にサギ類が利用
2025年11月14日14:00撮影（江ノ村箇所①）



夜間にカモ類が利用
2025年11月26日2:00撮影（実崎箇所）



夜間に撮影されたイノシシ
2025年11月24日01:40撮影（実崎箇所）



夜間に撮影された哺乳類（タヌキと思われる）
2025年12月17日04:50撮影（実崎箇所）

デコイの設置

ツル類を誘引するために、デコイ（ナベヅルの模型）を設置しています。今年度は、代替ねぐら環境の整備箇所（江ノ村箇所①、間箇所②、実崎箇所）、自然再生事業地（中山箇所、間箇所）にデコイを設置しました。

デコイの設置状況

	箇所	種類	設置数
1	江ノ村箇所①	立体型デコイ	4体
2	間箇所②	立体型デコイ	2体
3	実崎箇所	立体型デコイ	2体
4	自然再生事業地中山箇所	立体型デコイ	3体
5	自然再生事業地間箇所①	立体型デコイ	2体



2025年度のデコイの設置箇所



江ノ村箇所①



間箇所②



実崎箇所

人の利用の調整

今年度も四万十市と連携し、四万十ツルの観察マナーについて、広報しまんと11月号に記事を掲載いただきました。四万十市のウェブサイトやLINEでの情報発信については、四万十市でのツル類の確認が1回にとどまっているため、実施されていません。

ツルも安心して過ごせる四万十市を目指して

秋になると日本に渡ってくるツル(ナベツル、マナツル等)の越冬地は鹿児島県出水市に集中しており、病気が起こると絶滅につながる可能性があります。そのため、ツルの越冬地を分散させる取り組みが進められており、四万十市も分散地の1つになっています。

四万十川流域では、ツルが安心して過ごせるよう田んぼに水を張るねぐら環境づくりや「四万十ツルの観察マナー」の周知など、さまざまな取り組みを行っています。

その結果、例年ナベツルの飛来が確認されています。

今後も引き続き取り組みを進めていきますので、ご協力をお願いします。

問い合わせ先

四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局(中村河川国道事務所)

☎(34)7306 ☒ skr-nakama45@mlit.go.jp



提供:四万十つるの里づくりの会



四万十ツルの
観察マナー(PDF)

広報しまんと2025年11月号記事

ツル類を活かした観光振興

2025年度もつるの里祭りの中で、「ツル観察バスツアー」を開催しました。当日、ツルの飛来が確認されていなかったため、内容を堤防でのカモ類の観察に切り替えて実施しました。また、ツルへの理解を深めるために、ツアー参加者や会場来場者を対象に、「ツルクイズラリー」を実施し、回答者には缶バッチをプレゼントしました。



説明の様子



堤防での観察の様子



ツルクイズラリーの様子

クイズラリーで使ったツルの○×クイズ

- ・ツルは空を飛ぶとき、首を曲げる。○か×か。→×
- ・ツルは、木にとまることができる。○か×か。→×
- ・四万十市で、ツルを見られるのは、冬だけである。○か×か。→○
- ・ツルが産む卵の数は最大2個である。○か×か。→○
- ・(出水市で撮影したツルがたくさん映っている写真を見せて)
この写真の撮影場所は、日本である。○か×か。→○



会場内にツルの○×クイズを設置



ツルクイズラリーの回答者にプレゼントした缶バッチ

ツル類を活かした観光振興

高知県立幡多農業高等学校との連携、協働に向け、2025年12月1日に、生活コーディネーター科1年生24名、グリーン環境科1年生7名、アグリサイエンス科2年生11名を対象とした授業を行いました。授業では、生態系ネットワークや四万十市に飛来するツルについて説明した後、幡多農業高等学校との連携のテーマや連携に期待することを伝えました。



授業の様子

授業の内容

時間	内容
8:55 (5分)	■あいさつ（中村河川国道事務所計画課 新谷課長）
9:00 (45分)	■生態系ネットワークについて（日本生態系協会 関専務理事） ・生態系ネットワークとは ・他地域の事例紹介
9:45 (10分)	■休憩
9:55 (40分)	■四万十のツルについて（四万十つるの里づくりの会 佐伯会長） ・四万十つるの里づくりの取組について ・幡多農高との連携に期待すること
10:35 (15分)	■幡多農業高校との連携について（日本生態系協会 赤間） ・幡多農業高校との連携テーマについて ・幡多農高との連携に期待すること

生徒の感想

授業終了後、生徒から感想が寄せられたので、抜粋して紹介します。

- ・ツルと聞くと、寒い地域をイメージして、高知県四万十市には全く関係ないかと思っていたけれど、たくさんの方が活動をして、ツルが四万十に来ていることを知って、ツルの里づくりについて、興味を持ちました。
- ・ツルを見たこともなかったし、「四万十つるの里づくり」という取組があることも知らなかったなので、この機会に知れてよかったと思いました。
- ・つると人間が共存するために大切なことがたくさんありました。会をつくり、調査をすることで行動を把握していることがすごいと思いました。
- ・自分は東中筋小学校に通っていて、5年生の時に、ツルの里祭りに参加させてもらったことがあります。小学生の時は、ツルのことをあまり知るうとは思っていなかったけど、今日の講演を聞いて、ツルの種類は15種類しかいないのに、その内、7種類は日本にいと知り、感動しました。
- ・ツルが四万十市に降りるための取組を聞いて、自分も地域に貢献してみたいなと思いました。プロジェクトのみんなでツルをモチーフにした商品開発をしてみたいなと思いました。
- ・これからツルを見かけたら、あまり近づかずに、大きい音や人工光を出さないようにしていきたい。
- ・もともとある生態系を大切にするために、自分たちにできる取組を考えて、守っていきたいです。
- ・どうして、ナベツルの8割も出水市に飛来しているのだろうと思いました。
- ・自分はツルを見たことがないので、一度は見てみたいと思いました。

理解と関心の醸成

四万十川流域生態系ネットワーク形成の取組を啓発するために、下記の通り、四万十市内外でパネル等の展示や体験プログラムを行いました。今年度から体験プログラムの内容を羽ばたく折り鶴から、ストローと画用紙でつくる「ぱたぱたツル」に変更しました。

パネル展示等の実施状況

実施場所	実施期間	イベント名、実施場所	展示内容
四万十市外	2025年10月4日～13日	企画展「四国へ飛来するツル ～四万十川流域でのツルの里づくり～」(高知県立のいち動物公園での開催)	立体型デコイ、パネルの展示
四万十市内	2025年11月2日	たのしまんとリバーフェスティバル	立体型デコイやパネルの展示、ぱたぱたツルづくりの体験
四万十市内	2025年11月20日～12月10日	四万十市役所 1階ロビー	立体型デコイ、パネルの展示
四万十市内	2025年11月29日	第17回四万十つるの里まつり	立体型デコイやパネルの展示、ぱたぱたツルづくりの体験

パネル展示等の今後の予定

実施場所	実施期間	イベント名	展示内容
四万十市外	2026年2月14日	環境活動見本市(黒潮町開催)	立体型デコイ、平面型デコイ、ぱたぱたツルづくりの体験



たのしまんとリバーフェスティバル
(2025年11月2日)



四万十つるの里祭り
(2025年11月29日)



ぱたぱたツル

人材の育成・確保

今年度も四万十市立東中筋小学校5年生、6年生を対象として「ツルの自然体験学習会」が実施されました。2025年10月21日に室内授業とナベツルのデコイの設置を行っています。第17回四万十つるの里祭りでは、東中筋小学校5年生が、ツルについて学んだことを発表しました。また、2026年1月17日に開催される「生物多様性こうちプラン大賞交流会」で児童がツルの里づくりの取組について発表しました。



東中筋小学校でのツルの学習会



東中筋小学校でのツルの学習会



東中筋小学校でのツルの学習会



つるの里祭りでの学習発表

人材の育成・確保

第23回コアワーキングを踏まえ、2025年11月21日に開催された校長会での情報提供を行いました。校長会に出席していた市内の全小中学校16校の校長先生を対象に、四万十市にツル類が飛来していること、ツルを題材とした出前授業の対応が可能であることを伝えました。



校長会での説明の様子

みなさんのふるさと四万十にもツルがやって来ています！ツルのことを知ろう！

ご希望の内容に合わせて下記の物品を提供・貸出することができます。
地域について学ぶ総合学習や環境学習の一環としてぜひご活用ください。(出前授業についても実施できます)

【提供物】

- パンフレット「みんな知ってる!四万十市のツル」(B5サイズ: 全24ページ)
- 提供数: 図書館または各クラスに数冊など

【貸出物】

- 取組紹介パネル(A1サイズ)
- 貸出数: 2~12枚
- ※履系スペースに合わせて貸出枚数やパネルサイズを変更可能です
- 内容: 四万十川流域に飛来するツルについて、ツルの里づくりの取組、ツルの観察マナー 等
- デコイ(ツルを呼ぶための実物大の模型): 1~4体
- ※ツルを呼ぶ取組に使用するため、10月以降はデコイを貸出できません

パンフレット「みんな知ってる!四万十市のツル」

●提供者
・ 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会
・ 四万十川つるの里づくりの会
・ 中村河川国道事務所

展示イメージ

デコイ: 高さ約1m

みなさんのふるさと四万十にもツルがやって来ています！ツルのことを知ろう！

【出前授業】

- 希少なツルが冬に飛来する四万十市では、四万十つるの里づくりの会が中心となり、ツルと共生するまちづくりが行われています。
- 四万十市へ飛来するツルの生態やツルが暮らす環境づくりの取組を学びを通じて、「主体的・対話的で深い学び」探究的な学習の実現を支援します。
- 講師(例): 四万十つるの里づくりの会会長(2006年以降、東中筋小学校でツルの自然体験学習を指導)
- 対象: 小学校4~6年生
- 内容(例):
 - ①室内講話(通年実施可能です)
 - 四万十市にやってくるツルについて
 - ツルを呼ぶ活動、ツルの保護活動について
 - みなさんへのお願い(マナーを守ってツルを見守ろう、ツルの話を家族に伝えよう)
 - ②体験学習
 - ツルの平面型デコイ(模型)の色塗り体験
 - 色塗り体験は通年実施可能です
 - 田んぼへのデコイの設置
 - (デコイの設置は10月に実施します)
- 所要時間(例): ①室内講話(1~2時間程度)
②体験学習(2時間程度)
各学校のご都合に合わせてられます。
①だけでも実施可能です。

室内講話

デコイの色塗り体験

デコイの設置

平面型デコイ

●「第6回四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会(令和7年1月28日開催)」において、四万十市前教育長の久保良高氏より以下の発言があり、各学校への働きかけのきっかけとなりました。
「東中筋小学校だけでなく、四万十市内各小学校の子どもたちに、四万十市に飛来するツル類について教え、関心を持ってもらうことが重要である。」

使用した資料

人材の育成・確保

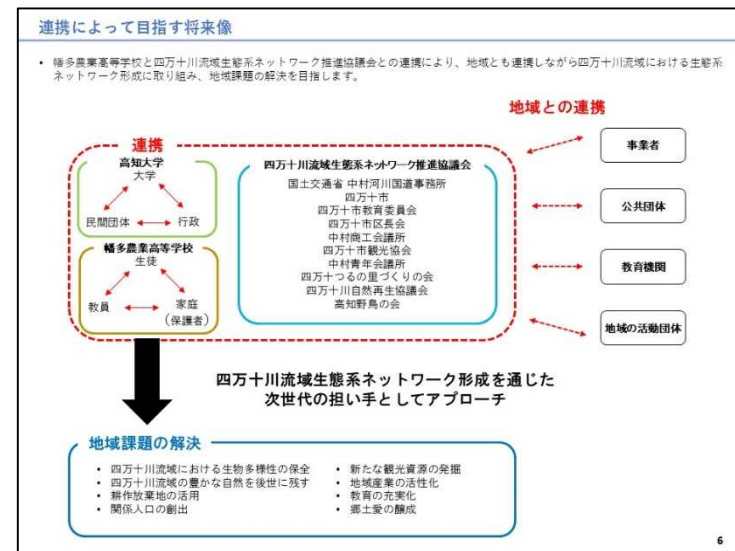
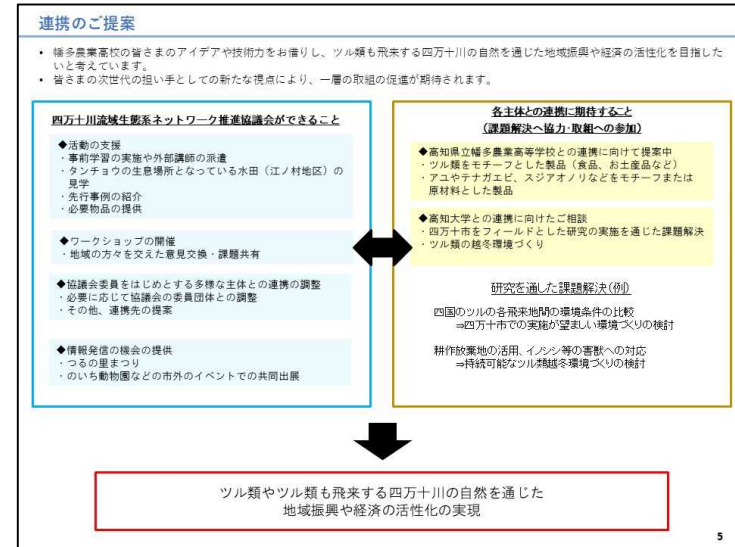
高知大学農林海洋科学部の学生（4年生）が、卒業研究のテーマとして、四万十市の農業やツルを希望したことから、取組の説明を行うとともに、地域の関係者へのヒアリング実施に協力しました。



四万十つるの里づくりの会へのヒアリングの様子
(2025年8月21日)



農業者へのヒアリングの様子
(2025年11月19日)



説明に使用した資料（一部）